

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 378 回 熊谷地方気象台と多治見市と...熊谷雑感

2010.8.15

ことさら暑い毎日が続いている。

わが街「熊谷市」は、この時期になると正に全国的に有名になる。

「熊谷」の PR の最大の貢献者は「気象台」といっても過言ではない。

熊谷地方気象台は、明治 29(1896)年 12 月 1 日に、埼玉県熊谷測候所として、気象観測の業務を開始した。以来、100 年以上にわたって場所を移転することなく業務を続けている、全国でも数少ない気象官署のひとつだ。

しかも県庁所在地ではない、埼玉県北の熊谷にあるこの気象台。

以前、この気象台長に

「なぜ県庁所在地でない熊谷に、気象台が設置されたのか」と聞いたことがある。

即座に当時の台長は...「気象台のある街を県庁にしなかったからです」と答えたのを記憶する。

浦和(現さいたま市)では東京に近すぎる事、当時の県の基幹産業であった蚕業の中心が熊谷だった事などが設置の理由のようだが、気象台が県庁所在地以外にあるのは、熊谷を含め全国に4県しかない。

浦和が勅命により正式に県庁所在地になったのは、明治 23(1890)年と記録にある。しかしその7年後、明治 30(1897)年、埼玉県議会は県庁を熊谷町に移転する建議を可決している。結果的には翌 31(1898)年に内務省より「不可」との通知が下り、浦和残留となった歴史がある。

なるほど、熊谷地方気象台設置の頃は、正にこの混乱期にあたる。台長の言うことも、まんざらではなかったのかもしれない。

この気象台が熊谷を全国的に有名にした。平成 19(2007)年、8 月 16 日 14 時 42 分に、熊谷地方気象台で最高気温 40.9 を観測した。この気温は、山形地方気象台が昭和 8(1933)年 7 月 25 日に観測した 40.8 を上まわり、日本の気象官署のなかで歴代1位の記録となった。

この時、岐阜県が多治見市が同記録として、熊谷と並んで発表された。

しかし、騙されてはいかん！多治見の記録はアメダス(地域気象観測システム)だ！

アメダス前身の観測所では気象年間を見ての通り、42～41 の記録もたくさんある。観測方法が明らかに違う「アメダス」と「気象官署」と「観測所」を同一比較して、「74 年ぶり更新」という記載は無理があるのだ！！正真正銘、アメダス以前からの気象官署で山形の 40.8 を更新したのは、熊谷だけなのだ！

熊谷地方気象台は明治以来、気象庁の地上気象観測指針に従いきちんと観測されている。すなわち、観測露場は周囲の建物などに影響を受けない程度の広さを持ち、温度計は通風式による代表的な空気の温度を測定するような装置で観測されているわけである。それに比べ、アメダス多治見は地方自治体役所の駐車場近くのかなり狭い面を借りていることと、温度測定器設置場所近くに白色塗装面の建物が隣接し、かつ地表面には緑色の防草ビニールシートが敷かれてあり、その 1.5m 高さの気温を測定しているのである。オリンピック記録に例えると前者が公認記録、後者は未公認記録としか言いようがないのが事実である。

変に熊谷自慢と弁解をしながら、この暑さを楽しんじゃおう！そんな熊谷っ子のコラムである。